

OnDO PBX

Version 1.3

コールログ・プラグイン開発ガイド (課金システムとの連携)

Brekeke Software, Inc.

バージョン

OnDO PBX v1.4 コールログ・プラグイン開発ガイド, 2005 年 3 月

著作権

本書の著作権は、Brekeke Software, Inc. にあります。

Copyright ©2005 Brekeke Software, Inc.

本書の一部または全部を、Brekeke Software, Inc. との書面による同意なしに、複製、複製、転載、多言語への翻訳、書き換え、あるいは、転送することは法律で禁じられています。

免責事項

Brekeke Software, Inc. は予告なしに本書の内容を変更する権利を有します。

登録商標

- ◆ Linux は Linus Torvalds 氏の米国及びその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ◆ Red Hat は米国 Red Hat, Inc.の登録商標です。
- ◆ Windows は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
- ◆ Mac は米国及びその他の国で登録されている Apple Computer, Inc の登録商標です。
- ◆ その他製品名と会社名は、一般にその会社の登録商標です。

| | |
|------------------|---|
| 1. はじめに..... | 3 |
| 2. 開発環境 | 3 |
| 3. 作成の手順 | 3 |
| 4. サンプル | 6 |
| 5. インストール方法..... | 7 |

1. はじめに

OnDO PBX v1.2 以降では、コールログとして通話時間を記録しています。このコールログを、プラグインを作成することで、他のプログラムから利用できるようになります。プラグインは Java で記述します。このドキュメントは Java によるプログラム開発ができる方を対象に書かれています。

2. 開発環境

JDK1.4 以降を使用してください。

3. 作成の手順

- 1) ビルド時のクラスパスに、<OnDO PBX インストールディレクトリ>/WEB-INF/lib/ondopbx.jar を指定してください。
- 2) com.brekeke.pbx.plugin.CallLogWriter インターフェースをインプリメントしてください。
- 3) CallLogWriter のメソッドは以下の一つだけです。

```
public void logging( long starttime, long endtime, String[ ] data );
```

各引数の説明

- starttime
コール開始時間 (呼び出し(INVITE) 開始)
 - endtime
コール終了時間
 - data
配列要素の各 String に、各セッションの詳細情報がカンマ区切りで入っています。セッションの情報は、コールログとして画面に表示される情報とほぼ同様です。以下の順になります。
 - PBX ユーザー PBX ユーザーの設定が使用された場合にユーザー名が入ります。
 - ルート名 ARS が使用された場合に、ルート名が入ります。
 - コールタイプが数値で入ります。

| | |
|-----------------|---------------------------|
| 0. missed* | 電話に出なかった。(通話は成立していない。) |
| 1. caller | 電話を最初にかけた |
| 2. callee | 電話を受けた |
| 3. transfer | 転送された |
| 4. call-pickup | コールピックアップをした |
| 5. park-pickup | パークをピックアップした |
| 6. hold-pickup* | ホールドからピックアップした |
| 7. join* | 会話に参加した |
| 8. supervisor* | スーパーバイズした |
| 9. resume* | ホールド中に誤って切断した後の呼び出しで復帰した。 |

✓ *これらのコールタイプはバージョン 1.4 以降からのサポートとなります。
 - 相手の SIP URI
 - 自分の SIP URI
 - コール開始時間 (呼び出し(INVITE) 開始)
 - 通話開始時間 (long 値)
 - 通話時間 (ミリ秒)
- ✓ #, ; % \$ \ についてはエスケープされます。(前に \ がつけられます)

ここで作成するクラスのインスタンスは、PBX が起動時に作られ、コールが終了する度に同じインスタンスのメソッド logging が呼び出されます。

4. サンプル

以下は、コールの内容をファイルに書き出す簡単なサンプルプログラムです。

```
package yourpackage;
public class LogPrintWriter implements CallLogWriter {
    private PrintWriter w;
    public LogPrintWriter(){
        try{
            w = new PrintWriter( new FileOutputStream( "C:/log.txt", true ) );

        }catch( IOException e ){
            // error
        }
    }

    public synchronized void logging(long starttime, long endtime, String[] data) {
        try{
            w.print( starttime );
            w.print( "-" );
            w.println( endtime );
            for( int i = 0; i < data.length; i++ ){
                w.println( data[i] );
            }
            w.flush();
        }catch( Exception e ){
            // error
        }
    }

    public void finalize() throws Throwable {
        try{
            super.finalize();
            w.close();
        }catch( Exception e ){
        }
    }
}
```

5. インストール方法

クラスパスを通す

コンパイルしたクラスファイルをそのまま、<OnDO PBX インストールディレクトリ>/WEB-INF/classes の下にパッケージ名のディレクトリ構造で置か、または、クラスファイルを JAR ファイルに圧縮して <OnDO PBX インストールディレクトリ>/WEB-INF/lib の下に置いてください。

プラグイン・クラス名をプロパティファイルに記述する

<OnDO PBX インストールディレクトリ>/WEB-INF/work/pbx/setting.properties をテキストエディタで開き、以下の例のように com.brekeke.pbx.Setting.LOGWRITER というプロパティに作成したクラス名をパッケージ付きで指定して保存します。

例) com.brekeke.pbx.Setting.LOGWRITER = yourpackage.LogPrintWriter

最後に PBX を起動してください。(マシンを起動してください)